



東洋学園だより

Vol.13

『東洋学園だより』は、東洋学園大学同窓会および東洋女子短期大学同窓会、東洋学園史料室（旧制卒業生）からの名簿提供（2024年11月22日現在）に基づいてお送りしております。

CONTENTS

辻中学長からのメッセージ.....	1
100周年記念プロジェクト/ 退任教職員.....	2
TOGAKU PBL紹介/学園祭報告/ 東洋学園の歴史.....	3
インフォメーション.....	4

東洋学園だより第13号 2025年1月31日発行 [発行・編集] 学校法人東洋学園 学生支援課 〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 TEL.03-3811-1072 E-MAIL.koyukai-info@tyg.jp

辻中学長からのメッセージ

実現段階に入った100周年改革プラン

TOGAKU IMPACT 2030

2026年に100周年を迎える本学では、より「選ばれる大学」になるための改革が進行中。その改革プランにかかる思いや具体的な内容を辻中学長に語っていただきました。



東洋学園大学学長
辻中 豊

大阪大学大学院法学研究科公法学専攻（修士）。博士（法学）京都大学。コーネル大学客員（フルブライト、ACLS）研究員。筑波大学人文社会系教授、副学長。東海大学政治経済学部教授、副学長。国際大学協会アジア代表理事（2012～16）。日本政治学会理事長（2014～16）。学校法人東洋学園評議員、理事を経て2022年4月より現職。

はじめに

18歳人口の減少の継続という厳しい大学環境の中、東洋学園は「100周年にむけて、選ばれる大学に」なるために、教職協働して、新しいアクションに踏み出しています。

1: TOGAKU IMPACT 2030
2024年1月発表（3月理事会）

大学改革においては学長のリーダーシップが強く求められます。2024年1月末に、まず100周年改革プランを、TOGAKU IMPACT 2030として発表しました。その三本柱は、①「見える教育改革」としてのグローバル東京TOGAKU PBL、②「見える組織改革」として3学部改組改革、③初年次教育の「見える化」教養デザイン学際カレッジ、の3つです。同時に、新しい教育理念と大学キャッチコピーの募集も行いました。学部改革の検討は継続中ですが、このプラン実現のためにさまざまな準備が進行中です。

前号でお話した「PBL（Project/Problem Based Learning）、自らの問い、問題や課題に基づく学習法」を、東洋学園大学の教育のエッセンスといたしました。座学中心の勉強（強いて勉める）ではなく、自分の問いや不思議だと思う心を活かし、その問いへの答えを探していく学習です。学びの楽し



PBLの一環として実施された子ども服譲渡会（P.3参照）

さ、学びへの動機づけを大切にする方法です。もっと言えば、自分の好き（な問い）を追いかけていく学びでもあります。すでに本学では、全員が必修である教養基礎演習から、そうした自ら解きたい課題学習とプレゼンテーションを取り入れています。そして、ほぼ半数の先生方が、何らかの意味でPBLというよいアクティブな授業をしています。

社会の最前線（現場）でもあるグローバル都市、東京の都心という、本学キャンパスの特長が生きる手法です。そして、多様な情報がヴァーチャルにOnlineで入手できる現代においても、現場での生きた経験やチームワークの意義を体感することができる貴重な手法だと考えています。

2: 新しい理念

1926年の建学から受け継がれる精神、「自強不息」（じきょうやまず）は、自ら弛まず努力を続けるという『易経』にある言葉です。これまでの理念、「時代の変化に 대응する大学」「国際人を育てる大学」「面倒見のよい大学」という3つの理念は建学の精神との関連が分かりにくいことから、第一期中期計画（2020～2024年度）では「1.教育理念の明確化」を謳いました。学生、教職員、大学それぞれが主体になることができる新しい理念を、教職員からの提案も踏まえ、「自他を活かしひらく」「社会と世界に向き合う」「支えあい未来をつくる」と再定義しました（2024年5月理事会決定）。

PBLで述べたように、現代の学生、教職員、大学にとって、まず、自らが生き生き（ワクワク）とできる場、そこでの生き生き（ワクワク）となる問い（課題、問題）を持つことが大切です。こうした問いを解く場やフィールド、専門を見つけることが最も重要です。自らのワクワクするところが分かれば、他の人々の同じような場やフィールドも尊重することになり、心も開き、学びにも啓（ひら）かれ、自分の道も開けてまいります。それが、社会と世界へ向き合うことを可能にし、お互いに支え合い、未

来を創ることが可能になります。これが自強不息の現代的な再定義と考えました。

3: 100周年改革の実施と準備

大学では、今、さまざまな場で、TOGAKU IMPACT 2030の実施への準備が進んでいます。TOGAKU PBL推進検討委員会、教養デザイン学際カレッジ準備委員会、教育企画課、教学マネジメント部会・同委員会などが設置され、着々と準備作業が進んでいます。

本郷キャンパスそれ自体が日々バージョン・アップしています。食堂は、カフェテリア風になり、学生が学びにも使えるラーニング・コモンズにもなっています。一階のエントランスホールにはTOGAKU SHOWCASEが設置され、催しに使われています。

今年からは、高校生むけのオープンキャンパスも質・量ともに改革されています。午後スタートのオープンキャンパス、学生発表展示室、学生スタッフ、モンゴルゲルなど研究の現場感覚導入、さまざまな受験生サポートプログラム、たとえば現代経営学部のPBL実践プログラム、グローバル・コミュニケーション学部のACCEPT、人間科学部のES（エントリーシート）サポートプログラムなどが導入されています。

4: 第三期認証評価実地調査から
第二期中期計画の制定、
さらに100周年へ

東洋学園大学は、2024年度に、大学としての7年に一度の、認証評価を受審いたしました。実地調査でも上記のような100周年にむけての改革について説明いたしました。現在、2025年度から始まる新しい中期計画（5年計画）を、策定しております。2026年秋の100周年にむけて、東洋学園大学は、さらなる改革を進めてまいります。皆様のご支援をいただけますと幸いです。

大学からのお知らせ

2026年11月、本学は創立100周年を迎えます。現在学内ではプロジェクトチームを立ち上げ100周年に向けた催し物などを企画しています。最新情報は大学ホームページや校友向けメールマガジン、東洋学園だよりなどで発信しますので、ぜひご覧ください。

大学の最新情報はホームページで！
東洋学園大学の「今」を随時更新。
【HP】 <https://www.tyg.jp/>

メールマガジン配信サービスのご案内
校友の皆様にご参加いただける講座など、年4回発信。
【HP】 <https://tgwb.tyg.jp/fr/koyukai/post-2.html>

お問い合わせ先
学生支援課 校友窓口

TEL 03-3811-1072 受付時間：平日（月～金）9：00～17：00

E-MAIL koyukai-info@tyg.jp ホームページ <https://tgwb.tyg.jp/fr/koyukai/>





100周年に向けた 記念プロジェクトが進行中!

100周年を前に「100年史編纂委員会」と「100周年記念イベント委員会」が発足し、記念事業を進めています。校友の皆さまがご参加いただける企画もありますので、ぜひ一緒に100周年を盛り上げていきましょう!

東洋学園HISTORY編纂中! 委員長からのメッセージ

校友の皆さん、東洋学園大学現代経営学部教授の今井克佳です。現代経営学部には発足の2002年から所属しています。本郷での初期の学園祭で、学生の皆さんと活動したこともあるので、記憶にある方もいらっしゃるかと思います。大学の前は東洋女子短期大学の英語英文科に所属していました。短大の学生と一緒に「Toyo Apple Network!」という

クラブを作ったことも懐かしいです。さて、東洋学園では、2026年に創立100周年という大きな区切りの年を迎えるにあたって、記念事業が進められています。そのひとつに東洋学園の発足以来100年の歩みを振り返る「HISTORY」のウェブサイトの作成があり、1年ほど前、私たち教員と職員



100年史編纂委員会の委員長を務める今井克佳先生

が見つかるかもしれません。一度覗いてみてください。

今後、2026年に向けてさらにさまざまなテーマのコラム、学園の歴史を詳細に辿る「通史」等コンテンツが追加されます。そして、委員会では「みんなの投稿」もお待ちしております。この度、より手軽に投稿できるように「投稿フォーム」(匿名可)も用意しました。学生時代を振り返る思い出の投稿はもちろん、こんなコンテンツが欲しい等の投稿も歓迎します。「HISTORY」のサイトは左のQRコードから「投稿フォーム」、「投稿要領」もサイト内にありますので、閲覧でも、投稿でも、気軽にアクセスしてください。

TOGAKU SHOWCASEで 100周年改革を「見える化」

100周年記念事業の一環として、TOGAKU SHOWCASEと題した新プロジェクトも始まっています。100周年記念イベント委員会が主導するこの取り組みは、1号館1階のエントランスホールを使って、本学の100周年改革を「見える化」するというもの。在学生が実践したPBLの学習成果を展示したり、関連イベントを行うなど、「見える化」のカタチは多様です。一般向けのイベントも行われ、子ども服譲渡会(P.3参照)には300組超が来場しました。今後さまざまな企画を予定していますので、ぜひご注目ください。



子ども服譲渡会を開催した人間科学部の学生たち。当日は300組超が来場し、NHKや新聞などの取材も殺到

100周年改革プランのひとつ TOGAKU PBLが全学部で活発に!

本学が推進しているTOGAKU PBLの概要や事例をご紹介します。都心という立地を活かした、アクティブかつ実践的なPBLが全学部で行われています。



子ども服譲渡会を開催した人間科学部の学生たち。当日は300組超が来場し、NHKや新聞などの取材も殺到

課題解決力を実践的に磨く! 都心の大学ならではのPBL

本学では今、全学部でPBLが活発に行われています。PBLとは、自分なりの考えで課題と向き合い、解決方法を探る学びのこと。都心にある本学は、近隣の企業や地域、そして世界とつながりながら、より実践的なPBLを展開できるのが強みです。また、本学ではす

TOGAKUでPBLを経験する在学生

100%
2024年度のPBL実施予定科目
95科目以上

べての在学生が1年次からPBLを経験するのも特徴。さらに、2年次以降のゼミや専門科目でもPBL体験の機会がふんだんにあり、2024年度のPBL実施科目は95科目以上のほりです。



収録見学やアンケート調査などのリサーチを重ね、テレ東BIZの利用促進戦略を考えた八塩ゼミ

企業や地域の課題解決を テーマにしたPBLの一例

現代経営学部では、企業の課題解決をテーマにしたPBLが多数実施されてい

ます。たとえば八塩ゼミは、テレビ東京の経済動画サービス「テレ東BIZ」を研究し、同サービスの利用促進キャンペーンを実践。また、本庄ゼミはドローン開発を手掛ける(株)石川エナジーリサーチと連携し、ドローンの新規市場開拓プランを提案しました。人間科学部では、地域の課題解決を目的としたPBLが盛ん。文京区&ゼンドラ(株)と連携して子ども服譲渡会を開催したり、地元商店街の納涼祭に参加して地域の方々と一緒に祭りを盛り上げるなど、多彩なPBLが行われています。



高性能の産業用ドローン開発を手掛ける(株)石川エナジーリサーチとの産学連携に挑んだ本庄ゼミ

第32回フェニックス祭〜郷郷祭り〜

2日間にわたる学園祭は大盛況!
同窓生が多数訪れ、歓談する姿も

10/12(土)・13(日)、東洋学園大学の学園祭「第32回フェニックス祭〜郷郷祭り〜」を開催。学生団体によるステージや出店のほか、お笑い芸人、若手俳優などが登場するイベントも。会場には「同窓生の広場」と題した休憩スペースも設けられ、同日併せて41名の同窓生が来場。歓談する姿が見られました。



グローバル・コミュニケーション学部の海外研修の様子。夏はアジア3カ国を巡るツアーを開催

自分なりの課題を設定し 海外で調査するPBLも!

グローバル・コミュニケーション学部では、世界を舞台にしたPBLを実施。各自で設定した課題に沿って、現地フィールドスタディを行うというものです。春にはニューヨーク、夏にはアジアツアーを開催しました。参加学生からは「現地ですごく楽しかった。深く研究してみたい」との声も聞かれています。



退任教職員から皆様へ 2024年度をもって退任予定の教職員から、校友の皆様へメッセージをお届けします。



グローバル・コミュニケーション学部
対馬 宏 教授
国際人を育成する東洋学園の
ますますの発展を祈念します

奉職して32年、それ以来、国際化に対応する人材を育成する高等教育に関わり、12年前には本学の一翼として立ち上がったグローバル・コミュニケーション学部を身に着けることになりました。2023年現在、外国人人口が341万人と全人口の3%にも迫る勢いで急増し、2050年代には10%に達するとされる中、当初の「海外を見て、それを国内に伝える」という観点から「国内の外国人と共存する」ためのいわば、「内なるグローバル化」が注目を浴びようになってきました。そして、この状況は好むと好まざるに関わらず日本全体に影響を及ぼしています。某予備校では、COVID19以来低迷していた国際系、英語中心の語学系学部の志望者数反転、そして長期的な当該人材の有望性を報じていますが、極めて自然の流れかと存じます。これからも国際化に対応する人材を輩出する高等教育機関として、是非ともますますの発展を祈念する次第であります。長い間まことにありがとうございました。

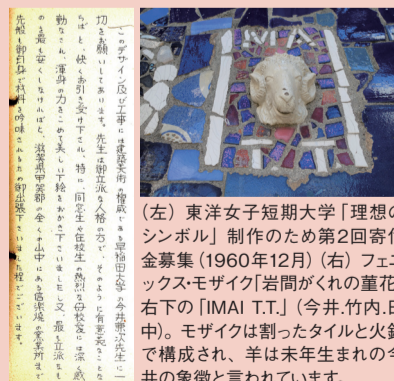


メディアセンター職員
大熊 淳一 氏
周囲に支えられての
22年間でした

22年間、メディアセンター一筋で勤務してまいりました。私が東洋学園大学に入職したのは2003年の8月です。ちょうどそのころ、学内ICT関連システムの変更が行われて間もない時期だったこともあり、メディアセンターは各種システムのメンテナンス、学生・教職員への対応など多忙を極めていたようです。そのような中で主に教員に対するパソコン関連のサポート業務としての役割をいただきました。そして、あっという間にこの春、定年退職を迎えます。ここまでやってこられたのは、素直でまじめな学生、当初から非常に協力的で前向きな先生方、職員の皆様の厚いサポート、そしてメディアセンターメンバーの理解と援助があったからこそです。感謝の言葉以外になにもありません。今後の東洋学園大学の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

東洋学園の歴史 第10回 信楽とフェニックス・モザイク

医療とジェンダーの歴史研究会のため奈良女子大学へ出張した翌日(24年9月29日)に甲賀市信楽町へ行き、佐藤信夫氏、神山由由氏のご案内で近江化学陶器長野工場跡、同勤工場など、的場幸雄氏のご案内で大塚オーミ陶業信楽工場を見学しました。これまでフェニックス・モザイクの作者で建築家の今井兼次が「材料を吟味」す



(左) 東洋女子短期大学「理想のシンボル」制作のため第2回寄付金募集(1960年12月) (右) フェニックスモザイク「活間」(今井兼次) (右) フェニックスモザイク「活間」(今井兼次) (右) フェニックスモザイク「活間」(今井兼次)

るため「滋賀県甲賀郡の全山の山中にある信楽焼の窯業所」(趣意書№2)に行ったと記されているほかは詳細不明でしたが、現地で多くのことを学びました。今井兼次の二人の助手Tのうち、竹内成志氏(多摩美術大学教授)は2021年の企画展で連絡をとることができました。もう一人のT、田中昇(洋画家・多摩美術大学助教授 1934-82)が1958年頃から近江化学陶器を頻りに訪れ、材料となる火鉢、タイルの調達について打ち合わせしていたそうです。当時、火鉢は「世の中に役に立たない捨てられてしまうもの」(今井「本学学生便覧」)になりつつありました。同社は1960年頃を境に主力製品をタイルに転換し、フェニックス・モザイク最終作「桃華楽堂」(皇居 1966)を飾るタイル工場の閉鎖に伴い、1970年の大塚万博「太陽の塔」背面レリーフ「黒い太陽」(岡本太郎)を製作します。

フェニックス・モザイクシリーズが完結した1966年、田中昇は同社が新築した社員食堂「希望館」屋内を陶板壁画で飾りました。タイル・主題不明、[N.T.1966]のサインがあります。画家の田中昇に陶板の作品があったことは驚きでした。近江化学陶器の製品を扱っていた卸商の庭先には、今も火鉢が積み上げられています。観察すると本学や長崎の26聖人殉教記念館を構成する部材と同じ柄の火鉢がありました。近江化学陶器は別会社による観光業に

業態を変え、その技術と精神は同社と大塚化学薬品(大塚グループ)が合併で設立した大塚オーミ陶業に継承されました。同社は立体的製陶技術を磨いて文化財レプリカ事業に注力し、2018年7月ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞を受賞、徳島に大塚国際美術館を設置しています。本学作品のタイルは信楽製と考えていたようですが、同地への入手はほぼ火鉢に限られていたそうです。ではタイルはどこで調達したのか。謎解きは続きます。

キャリアセンターからのお知らせ

キャリアセンターでは、在学生のみならず、卒業後の就職活動や早期離職・転職活動されている方の就職支援を行っております。この度、2024年9月に卒業する学生を対象に「若者正社員チャレンジ事業」の事業責任者である戸村氏を招聘し、個別の就職相談会を行いました。

「若者正社員チャレンジ事業」とは、飯田橋にある東京しごとセンターヤングコーナーの就職支援プログラムの1つで、29歳以下の求職者を対象にセミナーと企業内実習（インターンシップ）を通して正社員を目指す東京都の就職支援事業です。

在学中に就職活動を積極的に行えなかった方や、卒業後に自分のペースで就職活動をしていきたい方などを対象に、セミナーと企業内実習（インターンシップ）という就業体験をしていただき、そこでの経験に基づいて正社員としての就職につなげるものです。

参加対象者は仕事を探している既卒の29歳以下の方で下記の条件にひとつでも当てはまれば対象です。

- ・学校を卒業してから、就職をしたことがない方
- ・アルバイト、派遣、契約社員などの非正規での就業経験のみの方

・同一企業における正社員としての雇用期間が3年を超えない方
卒業後の就職活動や早期離職の転職活動で苦戦されている方、少しでも関心を持たれた方は、お気軽に東京しごとセンターにお問い合わせください。



お問い合わせ・お申込み先

東京しごとセンター「若者正社員チャレンジ事業」
ホームページより
【TEL】03-5211-2871



東洋学園大学同窓会奨学金 採用学生からのお礼の言葉

2022年に新設された東洋学園大学同窓会奨学金について、2024年度に採用された学生からのお礼のコメントをご紹介します。

「私は東洋学園大学同窓会の皆様のご厚意による奨学金を3年連続支給して頂きました。奨学金が無ければ、勉学に集中することが出来なかったと思います。卒業生の皆様の支援が活力と励みになりました。心から感謝申し上げます。」



現代経営学部 4年
品田 憲一郎さん（小売業内定）

東洋女子短期大学同窓会からのお知らせ

会員の皆さま、その後、お変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。

2026年は東洋学園100周年を迎える記念の年です。それに備え、短大同窓会ではひとりでも多くの方から在学中の出来事、先生や友人との思い出、将来への展望などのメッセージをお寄せ頂き、学園100周年に祝意を表したいと思います。

原稿は、下記同窓会宛てにEメールまたは郵便にてお寄せ下さいますようお願いいたします。なお住所・氏名の変更などのご連絡もよろしくお願いたします。

お問い合わせ先

東洋女子短期大学同窓会
【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 東洋学園大学内
【FAX】03-3811-5102 【E-MAIL】dosokai@ec.tyg.jp

各種証明書の発行について

証明書の申込はオンライン申請、手数料支払はオンライン決済となりました。

卒業年度により受取方法が異なります。

大学（大学院）卒業生		
	証明書の種類	受取方法
和文	卒業（修了）証明書 成績証明書	2005年3月以前の卒業生 郵送 / 大学窓口（教務課）
		2006年3月以降の卒業生 コンビニ発行*1 / 郵送 / オンライン送付*2 / 大学窓口（教務課）
英文	卒業（修了）証明書 成績証明書	郵送 / 大学窓口（教務課）
短期大学（専攻科）卒業生		
	証明書の種類	受取方法
和文 英文	卒業（修了）証明書 成績証明書	郵送 / 大学窓口（教務課）

*1) コンビニ発行：全国のコンビニエンスストアの各店舗内に設置されているマルチコピー機を利用して証明書をお受け取りいただけます。
*2) オンライン送付：電子証明書のオンライン送付機能は、各種証明書を真正性の担保された電子証明書（PDF）として企業に直接送付することができるサービスです。

※初回申請は「新規登録手続」が必要となります。承認には最長3営業日をいただきます。

詳細は本学ホームページにてご確認ください。

<https://www.tyg.jp/shomei/>

大学教務部メールアドレス：online-kyomu@tyg.jp

※個人情報の変更は各同窓会へご連絡ください。



図書館の利用について

利用登録をすれば卒業生も本学図書館を利用することができます。登録は無料です。ぜひご利用ください。

【登録に必要なもの】卒業を証明するもの（学位記またはそのコピー等）、現住所を確認できるもの（運転免許証等）。

【登録手続き】登録に必要なものを持参の上、図書館までお越しください。「図書館利用証」を発行します。

【利用できるサービス】閲覧、文献複写、貸出（図書のみ3冊まで、期間：2週間）

お問い合わせ先

図書館
【TEL】03-3811-1862
【E-MAIL】tosho-announce@tyg.jp
【HP】<https://opac.lib.tyg.jp/>



公開講座について

東洋学園大学では「開かれた大学」を目指し、研究・教育の蓄積を皆様と共有するべく、校友の方にもご参加いただける公開講座をご用意しています。

各講座の詳細・最新情報はホームページで！



入試情報

●入学金免除制度

本学園卒業生ご本人、在学生及び本学園卒業生のご親族（二親等以内）が本学へ入学される場合、入学金を免除します。

※人数の制限はありません。

●編入学、大学院入試

大学への編入学（3年次）や大学院、科目等履修生制度など、校友の皆様にも学んでいただけるよう、キャリアアップ、リカレント教育の場を設けております。

大学院では所定の単位を収め修了することで、FPの国際資格「CFP」の受験資格を取得できます。

お問い合わせ先

入試室
【TEL】0120-104-108（フリーダイヤル）
受付時間：平日（月～金）9：00～17：00
土曜日9：00～13：00 ※大学の定めた休日を除く
【E-MAIL】nyushi@of.tyg.jp 【HP】<https://life.tyg.jp>



東洋学園大学同窓会からのお知らせ

一異動調査にご協力をお願いしますー

同窓会では原則週一卒業生スタッフが出校し、業務を行っております。

本年度も無事会報、異動調査の発送を実施いたしました。

異動調査につきましてはお送りした会報に表示されるQRコードをご利用ください。また、本会HPからも随時受け付けております。本年度が対象となっていない方も何かしら変更がございましたらご活用いただければ幸いです。

お預かりした個人情報は、セキュリティ対策に万全を期した上で管理しております。

終息したとは言えないコロナ禍、ウクライナ戦争、中東の戦乱、止まらぬ物価高、まだまだ多事多難な状況が続きます。

すべての東洋学園に関係する皆さまのご無事とご活躍をお祈りしております。

お問い合わせ先

東洋学園大学同窓会室（原則毎週金曜日開室）
【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3
【TEL】03-3811-1820 【HP】<https://tgoal.jp/>



東洋学園大学の教育振興資金へのご協力のお願い

学校法人東洋学園は1926（大正15）年に建学し、在学生のご父母・保証人や、卒業生各位のお力添えを賜り、高く掲げた理想の教育の灯を消すことなく、今日を迎えることができました。そして来る2026年には創立100周年を迎えます。

本学は自強不息の建学の精神に基づいて、教育と研究の質を高め、学部の垣根を越えた交流や支援体制を充実させてきました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。新たな教育理念として「自他を活かしひらく」「社会と世界に向き

合う」「支えあい未来をつくる」を掲げ、その実現の為にさまざまな改革を進め、教育環境の整備・充実に努めていく所存でございます。

ご父母・保証人の方からは学納金をお納めいただき、国からも補助金をいただいておりますが、創立100周年に向け、教育内容の充実、修学環境の一層の整備と発展のため、格別のお力添えを切にお願い申し上げます。

学校法人東洋学園
理事長 愛知 太郎

ご寄付に関する詳細はホームページ（右記 QR コード）をご確認ください。

<https://www.tyg.jp/guide/toyo/bokin.html>



東洋学園大学教育振興資金寄付者ご芳名（敬称略・50音順）

（2023年4月～2024年3月までに寄付頂いた方）
法人／団体（2法人／1団体）：愛知株式会社、一般財団法人ユーラシア財団 from Asia、本郷雲岐坂太鼓
個人（10名）：青柳 宏幸、打田 美代子、大場 利恵子、金子 泰子、佐藤 文子、高村 宏子、竹林 容江、田邊 栄一、安田 公年、山本 寛之
他に氏名掲載を許諾された方以外の寄付者：在学生・卒業生等を含む個人（32名）